＋らｉふ　ニュース
平成 31 年度　春号

(編集・発行)平成 31 年 4 月発行

相談支援事業所　宮城野雲母倶楽部+らｉふ
〒983-0012　仙台市宮城野区出花 1 丁目 3-11
TEL/FAX：022-254-6757
HP：http://kilala.biz/
編集責任者　　秋保　明

新年度のご挨拶

新緑の季節ながら初夏を思わせるような日々が続いておりますが、皆様におかれましては益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

日頃より、当所の運営に対して多大なるご協力とご支援を賜り、改めて御礼申し上げます。

さて、昨年度におきましては、国において報酬改定が行われましたが、報酬改定によって事業所収入が減収し、全国的に就労継続支援・放課後デイを中心に廃止や縮小に追い込まれた事業所が続出しています。また、支援員の待遇改善も微々たるもので、課題となっている離職率の減少に歯止めがかかるとは思えない内容です。こうした事態は、結果として障害者やご家族にも多大なる負の影響を及ぼすものですから、サービスの基盤整備と併せて、事業所や支援員が安心してサービス提供できる環境を整えるために、改めて市民的協働が求められていると感じます。

ところで、仙台市では、複数区において「障害者自立支援協議会」と「介護保険制度の地域ケア会議」の合同による全体協議会が開催されています。その必要性については、65 才問題や 8050 問題等が挙げられていますが、巨大な介護保険制度の中に障害者問題が埋没し、結果的に介護保険制度へ如何にスムースに移行させるかのみがクローズアップされないか、非常に気掛かりです(㊟2018.12 広島高裁で重度障害者の方が 65 才から介護保険移行への無効を訴えた裁判で原告勝訴している)。

また、仙台市の相談支援システム構築にとっての喫緊の課題は、次年度に整備される予定の「基幹相談支援センター」です。これまでセンターが有すべき機能や役割等についての議論が為されてきましたが、具体の整備に当たっては、整備場所(どこに)・運営団体(どこの)・配置職員(だれを)など詳細な議論の積み重ねが必要ですから、一部委員等の議論に留めず、総意を集めて「機能するセンター」を整備したいものです。今年度もご指導ご鞭撻方よろしくお願い申し上げます。

平成 31 年 4 月

宮城野雲母倶楽部＋らｉふ　　施設長　秋保　明

投稿コーナー

このコーナーでは利用者の皆様のお声を載せていきます！

ペンネーム・そらさんの体験談から見えないつらさや不便さ、だれにでも起こり得ることであること、どのように乗り越え今の自分がいるのかを伝えていきます。

【　時代は変わるのに　】　そらさん No.7

春は不登校で悩んでいた時期を思い出します。部屋に籠り自分の存在を消す苦悩の日々でした。学校に行かないのは病気とされ、あちこち病院に連れていかれては医師から不良扱いされ逆にストレスになりました。話を聞く大人が不在でした。相談先がない頃の話と片付けたいですが今もさほど変わらないのが驚きです。寧ろ不登校が増えたのに何も行動できず閉鎖的な家が多いと聞きます。子を隠すのではなく多方面に解決を協力してくれる相談窓口が増えればいいのにと願うばかりです。

おしらせ

ゴールデンウィーク中の相談体制について

○4 月 27 日(土)
　…通常通り
○4 月 28 日(日)、29 日(月)
　…電話相談のみ、サロン休み
○4 月 30 日(火)～5 月 2 日(木)
　…通常通り
○5 月 3 日(金)～5 月 6 日(月)
　…電話相談のみ、サロン休み

仙台市障害者自立支援協議会

3 月 13 日に平成 30 年度第 3 回仙台市障害者自立支援協議会が開催され、今年度の各部会等の活動報告と、次年度の取り組みについて議論し共有を図りました。

仙台市障害者自立支援協議会では…

「ある方への支援体制に関する課題について共有し、関係機関の連携を密にしていくこと」「地域の状況に合った体制を整えて、障害のある方への支援体制をつくっていくこと」を目的に各種部会等を設け、議論を展開しています。

地域部会

○高齢分野、民生委員などと連携して地域での支援体制を整備します。
○地域資源に関する情報の集約と共有をするための仕組みづくりについて検討します。

評価・研修部会

○支援者のスキルアップのため研修体系の検討、事業所自己評価を通して相談支援の質の向上を図ります。

仙台市障害者自立支援協議会では 4 本柱を重点に関係支援機関等と連携しながら障害のある人が住み慣れた地域で生活し続けられるようにサポート体制づくりに取り組んでいきます。

障害者相談支援体制整備

○支援を要するのに自ら声が挙げられない人、多問題を抱えている人など、必要な人へ必要な支援が行き届くように体制づくりを検討していきます。

地域生活支援拠点

○地域の支援ネットワークを強め、緊急が想定される方への未然防止も含めた緊急時の対応ができるよう各区で体制づくりをしていきます。

平成 30 年度宮城野区障害者自立支援協議会
全体協議会

近年、障害者本人や家族など介護者の高齢化、障害者と高齢者のみの世帯など、多問題世帯が増加しており、これまでのような障害者・高齢者などの枠に捉われない支援の重要性が大きくなっています。

一方、障害者や高齢者の抱える課題は共通する傾向があり、且つ多様な課題は複雑に絡み合う状況となってきています。従って、課題解決には、その地域で有機的な連携システムを構築し、障害・高齢の分野を越えて捉える視点をもつことが重要になります。

このような状況から宮城野区障害者自立支援協議会では高齢分野における宮城野区地域ケア会議と合同で開催し、地域における支援体制を議論することとしました。

区障害者自立支援協議会
全体協議会

合同

区地域ケア会議

障害児者も高齢者も、住み慣れた地域で
安心して暮らし続けることができる
ネットワークづくり

今回の会議では、「地域包括ケアシステム」をテーマに一世帯に障害分野も高齢分野もニーズを抱えた事例を通して、このような様々な課題を抱えた世帯を支援する際の視点や障害分野と高齢分野の連携支援の在り方について共有しました。

＊事例を通して委員の皆さまから以下の意見が出されました＊

〇高齢の親、障害をもつ子どもの世帯事例が増えてきているように感じ、8050 問題を実感している。

〇支援をする中で制度が異なると情報が得にくいと感じる。支援に携わる支援者の顔合せの機会を作ることはよい。互いの状況を知ることで柔軟な対応がとれるようになると思う。

〇他分野の支援者と情報共有し役割分担をしながら一分野で抱え込まないことが重要になる。

〇支援の在り方について縦割りではなく横のつながりを重視していくことでご本人を包括的に支援することができる。

支援機関・支援者の顔のみえる関係をつくっていくことが支援の広がりとなっていきます。
抱えている課題を共有することで、それぞれの視点に新たな発見が生まれ、より良い支援へとつながっていくのだと感じました。

他の地域の取り組みを見てみよう！

郡山市障がい者基幹相談支援センター，相談支援事業所 ふっとわーく

平成 31 年 2 月 27 日に福島県郡山市にある「郡山市障がい者基幹相談支援センター」、「相談支援事業所 ふっとわーく」を見学し、基幹相談支援センターや基幹相談支援センターと連携する相談支援事業所の実務について学びました。

郡山市障がい者基幹相談支援センター

平成 29 年 10 月に開所。郡山市総合福祉センター内に設置され、市社会福祉協議会が郡山市から委託を受け運営しています。職員配置は所長 1 名、相談支援専門員 3 名、事務補助員 1 名、虐待防止センター担当職員 1 名の 5 名で構成されています。相談支援専門員は 3 障害に対応できるよう各障害の支援に長けた職員が郡山市委託相談支援事業所から「出向転籍」という形で配属されています。

センターでは個別ケースを持たず、他事業所の相談員のフォローや、圏域全体の関係機関が有効に機能するために必要な部分（人材育成、相談支援体制強化、多機関連携の仕組みづくり、情報の集約・発信等）の充実化を図る役割として運営しています。

一方で、基幹相談支援センターとして様々な相談を受ける中、新規相談の窓口となってしまい、受けたケースを相談支援事業所につなぐコーディネーター役になってしまっていることや、つなぐ相談支援事業所も飽和状態であるなど様々な苦労があるとのことでした。

相談支援事業所 ふっとわーく

平成 21 年に開設。主な利用対象者を知的障害の方としています。また、就業・生活支援センターと併設しているため、広域に支援を展開しています。

基幹相談支援センターができたことで、研修や事例検討などの機会も増えており、支援者間のネットワークを活かし、事業所内だけではなく様々な機関と連携して相談支援の質を高められるようにしているとのことでした。

他事業所の相談員が相談できる場やネットワークづくりとして機能していることから、ふっとわーくとしては相談員の孤立化や燃え尽きの予防となっているように感じているとのことです。相談事業所によって件数の偏りがみられる状況であることから、相談支援体制の整備への取り組みに今後期待しているとのことでした。

仙台市では令和 2 年度中に基幹相談支援センターの設置を目標としており、その在り方について仙台市障害者自立支援協議会で議論が行われています。郡山市では相談支援の現場から基幹相談支援センターの役割が必要であるとの声があがり、行政と市内全ての委託相談支援事業所でワーキンググループをつくり検討を重ねて設置に至ったそうです。

仙台市においても、私達に必要な機関としながら日々の活動を利用者に還元できるように、基幹相談支援センター設置に向けて仙台市と協働して検討していきたいと思います。